

主な指摘事項	対応
<p>今回の震災において、堤外地で人が亡くならなかったのか。堤外地での避難や誘導の方法がどうだったのか。答申に港湾での避難行動に関する情報を追加すると、より説得力が出るのではないか。</p>	<p>『Ⅰ. 1. (1)津波による被害』に港湾で働く方々についても津波到達時間までに避難場所に避難できなかった事例を記述。</p>
<p>漂流物に記載に関して、今後どういう対策を講じていくのか記載が無いように見受けられる。最大クラスの津波に対して、陸上における人命への被害を軽減するためにも、漂流物による被害の最小化を念頭に置くことが必要ではないか。</p>	<p>『Ⅰ. 1. (1)津波による被害』に東日本大震災の際の漂流物による被害状況を記載。漂流物への対処方針について今後検討を推進。</p>
<p>水門・陸閘の操作について、自動化・遠隔操作化には時間がかかるので、手動の水門・陸閘は無理をせず閉めないことも考えてはどうか。</p>	<p>『Ⅱ. 1. (2)水門・陸閘等の施設の管理・運用体制の見直し』に地域によっては、時間に余裕がない場合は、閉鎖を行わないといった管理基準が定められている事例がある旨記述。</p>
<p>「災害対応力」という表現よりは、発災した後の対応というイメージをもつので、例えば「防災力」と表現した方がよいのではないか。</p>	<p>『Ⅱ. 2. 港湾BCPに基づく港湾の災害対応力の強化』に注釈で災害対応力の定義を記述。</p>
<p>堤外地における民間企業が立地する埋立地での津波防災対策はどうなっているのか。護岸が壊れたり、漂流物が流れ込んだりする影響なども含めて一度チェックする必要があるのではないか。公共、民間を問わず、埋立地全体として打てる対策を打っていくべきではないか。</p>	<p>『Ⅱ. 2. (3)港湾における液状化対策の検証』に液状化の可能性とその対策について検証を進めていく旨記述。</p>
<p>「防潮堤による背後市街地の防護」で「耐震対策を講じる必要がある」とされているが、広域的な地殻変動による沈下と局所的な液状化による沈下の双方を考慮し、震災後に必要となる防潮堤の高さを確保するという視点が重要である。表現を工夫出来ないか。</p>	<p>『Ⅲ. 1. (1)防災・減災目標に従った津波防護対策、避難対策の推進』に地殻変動に伴う地盤沈下と地盤の液状化による堤体の沈下の双方の影響を考慮した耐震対策、必要な天端高の維持について記述。</p>